

アレルギー専門医（共通）の到達目標

アレルギー専門医（全基盤診療科共通）の基本的到達目標

アレルギー専門医の到達目標とは、各々の基盤領域の知識と臨床経験を十分に有した上で、アレルギー疾患を有した患者に対して専門的かつ正確な診断・治療を行うことのできる医師となることである。

アレルギー疾患はひとりの患者に複数の疾患を合併することが特徴である。アレルギー科を標榜した場合、複数臓器にわたる包括的な管理・治療が要望されるため、アレルギー専門医は“total allergist”としての基本的な能力を培うよう努力すべきである。

以下はすべてのアレルギー専門医が到達することが望まれる基本的な到達目標である。

1. アレルギー疾患全般に対して、各種検査方法を用いて病因アレルゲンの同定と適切な回避指導ができ、必要に応じてアレルゲン免疫療法が施行できる。
2. アナフィラキシーの既往者に対して、アレルゲンや原因の同定とその回避指導、アドレナリン自己注射システムの教育指導を含めた管理ができる。
3. 気管支喘息についてガイドラインに基づいた管理・治療ができる。
4. 花粉症・アレルギー性鼻結膜炎についてガイドラインに基づいた管理・治療ができる。
5. 蕁麻疹・アトピー性皮膚炎についてガイドラインに基づいた管理・治療ができる。
6. 食物アレルギーについてガイドラインに基づいた管理や指導ができる。
7. 薬剤アレルギーについて基本的な管理と指導ができる。
8. その他、昆虫アレルギー、口腔アレルギー症候群、ラテックスアレルギーなどの各種アレルギー疾患について基本的な管理と指導ができる。

アレルギー専門医（各科別）の到達目標

- ・アレルギー専門医（内科系）の到達目標
- ・アレルギー専門医（小児科系）の到達目標
- ・アレルギー専門医（耳鼻咽喉科系）の到達目標
- ・アレルギー専門医（皮膚科系）の到達目標
- ・アレルギー専門医（眼科系）の到達目標

アレルギー専門医（内科系）の到達目標：

内科系アレルギー専門医の到達目標は、内科領域の知識と臨床経験を十分に有した上で、アレルギー疾患を有した成人患者に対して専門的かつ正確な診療を行うことのできる医師となることである。

具体的には、以下に精通することが必要である。

1. アレルギー疾患全般に対して、各種検査方法を用いて原因アレルゲンの検索と同定ができ、原因アレルゲンに応じた患者指導と治療ができる。
2. 各種のアナフィラキシー既往者に対して、アレルゲンの同定とその回避指導、アドレナリン自己注射システムの教育指導を含めた長期管理ができる。また急性のアナフィラキシー（様）反応に対し、的確かつ迅速に対応できる。
3. 思春期から、高齢者喘息まで、妊娠中の患者をふくめ幅広い年齢層の気管支喘息患者の長期管理ができ、特に難治性喘息を的確に管理できる。
4. 重症の喘息急性増悪に対して、的確かつ迅速な対応ができる。
5. 特殊喘息（職業性喘息、アスピリン喘息など）の適切な診断と患者指導、治療、ができる。
6. 慢性咳嗽を正確に鑑別し治療ができる。
7. 各種アレルギー性呼吸器疾患（急性・慢性好酸球性肺炎、アレルギー性気管支肺真菌症、過敏性肺炎、薬剤性肺炎）の診断と治療ができる。
8. 薬剤過敏症や薬剤アレルギー患者に対する対応や指導ができる。
9. 花粉症・アレルギー性鼻炎の原因アレルゲンを同定し、ガイドラインに基づいた管理・治療ができる。
10. 蕁麻疹・アトピー性皮膚炎に対してガイドラインに基づいた管理・治療ができる。
11. 口腔アレルギー症候群やラテックスアレルギーを的確に診断し指導ができる。
12. 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（EGPA）を診断し治療ができる。
13. 好酸球増多疾患の鑑別ができる。

以下の項目は所属医療機関の地域や規模等により診療内容に差異があるために必須ではないが、アレルギー専門医（内科系）として精通するよう努力すべき項目である。

- 1) アレルゲン免疫療法（皮下・舌下）
- 2) アレルゲン皮膚テスト（特にプリックテスト）を中心としたアレルゲンの同定
- 3) 薬剤アレルギーやNSAIDs不耐症の精査（負荷試験も含め）
- 4) 気道過敏性検査
- 5) 誘発喀痰や呼気一酸化窒素濃度測定を用いた気道炎症の評価
- 6) 環境真菌に対する沈降抗体やIgG抗体

アレルギー専門医（小児科系）の到達目標：

小児科系アレルギー専門医の到達目標は、小児科領域の知識と臨床経験を十分に有した上で、アレルギー疾患や免疫異常を有する小児患者に対して専門的かつ的確な診療（検査，治療，生活指導等）を行うことのできる医師となることである。

具体的には、以下に精通することが必要である。

1. 小児期の免疫系の発達に関する十分な知識を有する。
2. アレルギー疾患に対して、各種検査方法を用いて原因アレルゲンの検索と同定ができ、原因アレルゲンに応じた患者指導と治療ができる。
3. アナフィラキシーの予防と治療を適切に行える。
4. 乳児・小児喘息の正確な診断と急性重症発作の治療，および児の長期予後を考慮した喘息の長期管理が行える。
5. 慢性咳嗽の診断・治療が行える。
6. 食物アレルギーの正確な診断と治療および長期管理が行える。
7. アトピー性皮膚炎の基本的な診断と治療が行える。
8. 花粉症・アレルギー性鼻炎の基本的な診断と治療が行える。
9. 薬剤アレルギーの基本的な診断・治療が行える。
10. 保育所・幼稚園・学校等などにおける集団生活が適正に行えるように，患児や家族のみならず，関係者に対する指導や助言を適切に行える。
11. 基本的な免疫不全症の診断と治療が行える。

以下の項目は所属医療機関の地域や規模等により診療内容に差異があるために必須ではないが，アレルギー専門医（小児科系）として精通するよう努力すべき項目である。

- 1) アレルゲン免疫療法
- 2) 食物依存性運動誘発アナフィラキシーの診断と治療
- 3) 口腔アレルギー症候群の診断と治療
- 4) 気道過敏性試験

アレルギー専門医（耳鼻咽喉科系）の到達目標：

耳鼻咽喉科系アレルギー専門医の到達目標は、耳鼻咽喉科領域の知識と臨床経験を十分に有した上で、主に耳鼻咽喉科領域のアレルギー・免疫疾患を有した患者に対して専門的かつ正確な診療（検査，治療，指導など）を行うことのできる医師となることである。

具体的には、以下に精通することが必要である。

1. 鼻副鼻腔疾患に対して十分な知識を有し、鼻過敏症の鑑別診断および治療が正しく施行できる。
2. アレルギー疾患に対して、原因アレルゲンの検索と同定ができ、それに応じた患者指導ならびに治療ができる。
3. 通年性アレルギー性鼻炎ならびに花粉症に対して、病型や重症度に応じた治療が適切に行え、難治例に対しても的確に管理ができる。
4. アレルゲン免疫療法（皮下・舌下）に対する十分な知識を有しかつそれを適切に施行できる。
5. 急性のアナフィラキシーに対する確かつ迅速に対応できる。また、アナフィラキシー既往者に対し、アドレナリン自己注射を含めた管理指導ができる。
6. 慢性咳嗽や咽喉頭異常感症などに対する耳鼻咽喉科的診療ならびに鑑別疾患や治療が適切に行える。
7. 口腔アレルギー症候群，ラテックスアレルギー，食物アレルギーの診断が行え，管理指導や初期治療ができる。
8. 薬剤アレルギーに対する対応や指導ができる。
9. 喘息患者に対して発作期の治療も含めてガイドラインに基づいた初期治療ができる。
10. アトピー性皮膚炎，蕁麻疹のガイドラインを理解し，患者に適切に対応・指導できる。
11. 耳鼻咽喉科領域に発生する自己免疫疾患であるANCA関連血管炎（副鼻腔炎・中耳炎を含む），シェーグレン症候群，ベーチェット病，サルコイドーシス，反復性多発軟骨膜炎などの診断と治療が適切に行える。
12. 好酸球性副鼻腔炎・中耳炎の病態を理解し診断と治療ができる。

以下の項目は所属医療機関の地域や規模等により診療内容に差異があるために必須ではないが、アレルギー専門医（耳鼻咽喉科系）として精通するよう努力すべき項目である。

- 1) パッチテスト
- 2) 金属アレルギーの診断
- 3) 自己免疫性水疱症の診断
- 4) ハチアレルギーへの対応
- 5) 化学物質過敏症に対する管理指導

アレルギー専門医（皮膚科系）の到達目標：

皮膚科系アレルギー専門医の到達目標は皮膚科領域の知識と臨床経験を十分に有した上で、主に皮膚アレルギー疾患を有した患者に対して専門的かつ正確な診療（検査や治療、指導など）を行うことのできる医師となることである。

具体的には、以下に精通することが必要である。

1. 皮膚アレルギー疾患（接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、痒疹など）に対して、診断、治療および各種検査方法を用いて原因抗原の検索と同定ができる。
2. 自己免疫性皮膚疾患（天疱瘡、類天疱瘡など）の診断、治療ができる。
3. 皮膚アレルギー疾患の原因抗原に応じた生活指導や環境調整、治療ができる。
4. 血管炎およびSLE、皮膚筋炎、シェーグレン症候群などの膠原病を早期に診断し治療できる。
5. 口腔アレルギー症候群やラテックスアレルギーを的確に診断し指導できる。
6. 妊娠中のアレルギー疾患患者への適切な対応や治療ができる。
7. 喘息患者に対してガイドラインに基づいた初期治療などが的確に対応できる。
8. 薬剤過敏症や薬剤アレルギー患者に対する的確な対応や指導ができる。
9. 急性のアナフィラキシーや薬剤アレルギーに対し、的確かつ迅速に対応できる。
10. アナフィラキシー患者に対するアドレナリン自己注射も含めた長期管理ができる。
11. 花粉症やアレルギー性鼻炎の原因抗原を同定し、ガイドラインに基づいた管理ができる。
12. 好酸球増多疾患の鑑別ができる。

以下の項目は所属医療機関の地域や規模等により診療内容に差異があるために必須ではないが、アレルギー専門医（皮膚系）として精通するよう努力すべき項目である。

- 1) アレルゲン皮膚テスト（パッチテスト、プリックテスト、皮内テスト）
- 2) 光線過敏症試験
- 3) 皮膚描記法
- 4) 蛍光抗体法（直接法、間接法）による自己免疫性水疱症の診断
- 5) ハチアレルギーへの対応
- 6) アナフィラキシーや食物依存性運動誘発アナフィラキシーの精査
- 7) 食物アレルギーの精査
- 8) 薬剤アレルギーやNSAIDs 不耐症の精査（負荷試験も含め）
- 9) アレルゲン免疫療法
- 10) 各種好酸球性臓器障害（好酸球性胃腸症、好酸球性副鼻腔炎、好酸球性中耳炎など）の理解と鑑別

アレルギー専門医（眼科系）の到達目標：

眼科系アレルギー専門医の到達目標は眼科領域の知識と臨床経験を十分に有した上で、眼科領域のアレルギー・免疫疾患を有した患者に対して、専門的かつ的確な診療を行うことのできる医師となることである。

具体的には、以下に精通することが必要である。

1. アレルギーの関与する眼疾患に対して、原因アレルゲンの推定、検索、同定ができ、それに応じた患者指導ならびに治療ができる。
2. アレルギー性結膜疾患の診断ならびに病型分類をすることができる。
3. 角結膜疾患全般に対して十分な知識と経験を有し、アレルギー性結膜疾患と他の角結膜の炎症性疾患とを的確に鑑別できる。
4. アレルギー性結膜疾患に対する抗原回避の方法を適切に説明できる。
5. アレルギー性結膜疾患に対する薬物治療を適切に行える。
6. 春季カタルに対する手術療法について患者に説明することができる。
7. ステロイド剤の全身、局所投与による副作用を患者に説明することができ、副作用が起こった場合には適切に対応することができる。
8. アトピー性眼瞼炎の診断と治療を行うことができる。
9. アトピー性白内障、アトピー性網膜剥離の診断を行うことができる。
10. ぶどう膜炎、強膜炎の診断と治療を行い、長期管理をすることができる。
11. 季節性アレルギー性結膜炎に対してガイドラインに基づいた初期治療を行うことができる。
12. 喘息に対して、ガイドラインに基づいた初期治療を行うことができる。
13. アトピー性皮膚炎、蕁麻疹に対して、ガイドラインに基づいた初期治療を行うことができる。
14. アレルギー性鼻炎に対して、ガイドラインに基づいた初期治療を行うことができる。

以下の項目は所属医療機関の地域や規模等により診療内容に差異があるために必須ではないが、アレルギー専門医（眼科系）として精通するよう努力すべき項目である。

- 1) 春季カタルに対する手術療法の適応を決定し適切に実施することができる。
- 2) 圧迫眼底検査に精通し、アトピー性網膜剥離の原因裂孔を同定できる。
- 3) アトピー性白内障、アトピー性網膜剥離を適切に手術治療できる。
- 4) 皮膚テストをおこない、アレルゲンの同定をすることができる。
- 5) アレルギー性結膜疾患に対する免疫療法を適切に実施することができる。